

スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議（タスクフォース）報告書

私たちは未来から「スポーツ」を託されている ―新しい時代にふさわしいコーチング―（概要）

はじめに

- 我が国のスポーツはこれまで多くの熱心なコーチの努力により支えられてきた。本タスクフォースとしては、多くのコーチの努力に深い敬意を表するとともに、本報告書の提言を実行することでコーチを支える環境が充実することとなり、我が国のスポーツの発展につながるものと考える。この実行は国家戦略としてのスポーツ立国の実現にも資する。

I. 新しい時代にふさわしいコーチング及びコーチ

1. スポーツにおけるコーチング及びコーチとは何か

- スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利。オリンピック憲章では、オリンピズムの根本原則として、スポーツを人類の調和のとれた発達に役立てることや、スポーツが持つ教育的価値の尊重を挙げている。
- スポーツを指導する者の役割は、競技者の目標達成のために最大限サポートすること。本報告書ではサポート活動全体を「コーチング」、コーチングを行う人材を「コーチ」。

2. スポーツを取り巻く環境の変化

- スポーツは社会の中で行われる活動。社会の規範・価値を遵守しなければならない。
- 我が国のスポーツ界が改めてコーチによる暴力行為を根絶しなければならないという強い共通認識を持つことが必要。
- 我が国は少子高齢化、高度情報化、グローバル化が進行しており、これらに対応した新しい時代にふさわしいコーチングを行うことが必要。

3. 新しい時代にふさわしいコーチング及びコーチ

- 新しい時代にふさわしいコーチングとは、それが「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」である、ということを常に意識して行われるもの。新しい時代にふさわしいコーチとは、それを常に自覚して活動する主体。これらの認識が社会全体で共有されることが必要。
- 強制ではなく人格を尊重し主体的な判断・行動を促すこと、練習の量だけではなく質を重視すること、社会の規範を遵守することなど、スポーツの価値や健全性の向上を忘れずに行動することが必要。
- 競技者とコーチの強い信頼関係や、相手の尊重や克己心を大切にする武道、フェアプレー精神・スポーツマンシップなど我が国の伝統を踏まえ、我が国のスポーツを発展させてきたコーチングの真の意義・価値を改めて見つめ直すことが、コーチの社会的地位の確立、我が国のスポーツの発展に寄与。

II. コーチング及びコーチの現状と課題

1. コーチングの現状と課題

(1) 社会及び世界の中のコーチング

コーチングは社会的な活動であり、我が国のスポーツ界は健全性の回復に努めなければならない。国際的な情報の収集や、世界への情報発信が必要。

(2) コーチングに必要な知識・技能

大学生への調査によると暴力を容認する者も依然多数。現在、哲学・倫理、コミュニケーション能力等の習得が不十分と指摘されており、コーチングに必要な知識・技能の共通認識を作るとともに、現場で活用されるための方策の検討が必要。

(3) 子供に対するコーチング

発達段階に応じて適切なコーチングを行うことは容易ではなく、子供に対するコーチングにはより高い倫理観と高度な知識・技能が必要。

(4) コーチングの環境

競技者・チームを支えるコーチや家族、マネジャー等の関係者（アスリート・アントラージュ）が連携を図ることで現場に多様な関係者の目を入れることが可能。第三者による相談体制の整備も重要。

2. コーチの現状と課題

(1) コーチの質の保証

コーチの育成過程を経ずにコーチとなっている者もあり、大学等の教育課程を含む育成制度の充実が重要。資格制度が整備されていない競技もあるため、体系的な育成制度の整備を進めることが必要。女性のコーチや団体役員が少なく、多様性が不足。

(2) コーチの継続的かつ競技横断的な学習

コーチが継続的かつ視野を広げて学習を続けるための学習法の開発や機会の充実が必要。

(3) コーチの有効な活用

コーチの専門性を生かした活用や処遇が不十分との指摘。活用に当たっての評価方法も共通化しておらず、長期的な視野でのコーチングの評価が不十分。

(4) グローバル化への対応

国内で育成されたコーチが諸外国で活躍するよう取組を行うことが必要。

Ⅲ. 新しい時代にふさわしいコーチング及びコーチの確立に向けて（主要な提言を抜粋）

1. コーチングの改善方策

(1) コーチングに「社会の目」やグローバルな動向を反映させる仕組み

・国、独法、スポーツ団体、大学等による「コーチング推進コンソーシアム」（仮称）の設置等を検討

・独法、スポーツ団体、大学等によるコーチングの研究や国際的な情報の収集・発信

(2) 最適なコーチングを行うために必要な知識・技能の明確化とその活用を図るための方策

・スポーツ団体、大学等は、国、独法等の取組とも連携し、コアカリキュラムの検討等を進め、哲学や倫理、内発的動機づけ、コミュニケーション能力等の位置づけを明確化

・スポーツ団体、大学等はOJT等の現場で知識・技能を活用させるプログラムを開発

(3) 子供の発達段階に応じ長期的な視野をもったコーチングの実現方策

・「運動部活動の在り方に関する調査研究報告書」を踏まえた取組を実施

・国、スポーツ団体は長期的視野でコーチングを行っている者の顕彰等を検討

(4) コーチング環境のオープン化

・国、スポーツ団体によるアスリート・アントラージュが連携したコーチング環境改善の取組

・スポーツ団体はメンター制度の創設検討などコーチング支援体制を充実

2. コーチの資質能力向上方策

(1) コーチの質の保証を図るためのスキーム

・国、独法、スポーツ団体、大学等はコーチ育成制度の評価方法を検討

・スポーツ団体は資格制度を整備し原則、全てのコーチの資格保有に取り組む

・スポーツ団体は女性のコーチや団体役員の増加に取り組む

(2) コーチの継続的かつ競技横断的な学習のための方法・体制の開発・整備

・スポーツ団体はコーチの継続的かつ競技横断的な学習を支援する体制を整備

・国、独法、統括団体は競技の枠を越えたコーチのコミュニティを創出

(3) コーチの活用のための方策

・スポーツ団体、地方公共団体、大学等によるコーチのマッチング・適切な処遇

・国、独法、スポーツ団体、大学等はコーチ活用のための評価方法を検討

(4) スポーツにおけるグローバル人材の輩出

・スポーツ団体、大学等はグローバルに活躍できるコーチを育成・輩出